

## SDO/AIA による磁気リコネクション領域近傍でのインフローとアウトフローの同時観測

M40a

高棹真介、柴田一成、浅井歩、磯部洋明(京都大学)

太陽における磁気リコネクションの問題の一つに、フレアのような大規模な現象がいかんして小さなスケールの現象から引き起こされるか、というスケールの問題がある。これを解決するためには空間・時間的に高分解能な観測が必要とされる。今までリコネクションの証拠となりうるインフローは Yokoyama et al.(2001) によって報告されていたが、予測されるアウトフローをはじめとするリコネクション領域の詳細についてはいまだ観測的情報が十分ではないのが現状である。本講演では2010年8月18日に西のリムの向こうで起きたフレアの、Solar Dynamics Observatory(SDO) による極端紫外線撮像観測について報告する。今回のイベントではコロナでY字型構造が現れ、そこでインフローとともにアウトフローが同時観測された。また、その下方(太陽表面側)でプラズモイド合体も見られるように、小さなスケールの現象が見えてきた。さらに国立天文台野辺山電波ヘリオグラフによる電波データでも短時間の増光現象が複数認められており、これらリコネクション領域での現象と粒子加速との関連についても考察する。以上、リコネクション領域に対する新たな観測的情報について報告する。